

<論文>上海における英系海外銀行 1890-1913 年

著者	西村 閑也
雑誌名	経営志林
巻	34
号	4
ページ	1-20
発行年	1998-01-30
URL	http://hdl.handle.net/10114/00016238

上海における英系海外銀行 1890—1913年

西 村 閑 也

I

従来の通説によれば、1949年の革命以前の中国経済は、半封建的・半植民地的性格によって特徴づけられていた。半封建的地主と帝国主義諸国の搾取と収奪のために、近代化・工業化のために必要な資本の蓄積が進まず、したがって窮乏と慢性的停滞が支配していた、とされた。このような通説的理解は、戦前の中国経済についての直観的印象とよく合致していたが故に、多くの人々の革命前中国についての理解の基礎となっている。しか

しながら、近代における中国経済の歴史を上のような通説的理解でとらえることには、多くの問題があると思われる。

中国の20世紀初頭—1936年についての信頼しうる国民所得統計の時系列は存在しないので⁽¹⁾、中国経済の成長の動向を考えるためには、貿易統計が殆ど唯一の基礎である。表1は、1901年—36年における中国の名目輸出入と実質輸出入を示すものである。表1から、輸入と輸出の実質成長率を計算すると、表2のようになる。

表1。中国の貿易統計、1901—1936年*

年	輸入 (百万元)	輸出 (百万元)	貿易収支 (百万元)	輸入価格 指 数 +	輸出価格 指 数 +	実質輸入 (百万元)	実質輸出 (百万元)
1890	168.6	155.7	-12.9	40.7	51.5	414.3	302.3
1901**	366.0	292.1	-73.9	75.3	70.6	486.1	413.7
1910	712.4	594.6	-117.8	102.5	91.8	695.0	647.7
1921	1,395.4	935.8	-459.6	167.4	117.6	833.6	795.7
1929	1,947.8	1,587.2	-350.6	158.1	169.8	1,232.0	934.7
1936	941.5	742.6	-198.9	152.3	139.2	618.2	533.5

*1932年までの数字は原表では海関両表示なので、1元=0.65両の率で、元に換算した。

**1900年は義和団の乱の年なので、1901年をとった。+1900年=100

(出所) Hsiao Liang-lin, *China's Foreign Trade Statistics*, Harvard Univ. Press, Cambridge, Mass., 1974, pp.268-275.

表2。中国の実質輸入・実質輸出年平均増加率
(複利計算, %)

年平均	実質輸入	実質輸出
1890—1901	1.46	2.90
1901—10	4.05	5.10
1910—21	1.67	1.89
1921—29	5.01	2.03
1929—36	-8.75	-7.06

(出所) 表1に同じ

すなわち、1929—36年は、実質輸入・輸出は共に大幅のマイナスを記録している。いうまでもなく、これは主として世界恐慌の影響による現象で

ある。特に中国の主要輸入品の一つであった生絹・絹製品は奢侈品であったから、先進国の深刻な景気後退は、中国の輸出に大打撃を与えた。なお、この他に、1929年に中国の関税自主権が回復され輸入関税率が相次いで引上げられたことが、輸入の減を一層大幅のものとした。第三に、1931年における満洲国の成立が、中国の輸出入の一部をうばいといったことが考えられなくてはならない。だから、1929—36年の実質輸出入の減少のスピードは表2におけるほどドラスチックなものではなかったのであるが、それでも、その成長率がプラスであったとは考えられない。1931年と32年を比べて、

輸入の落ち込み幅は25.4%，輸出のそれは40.5%であるが、この減少のすべてが満洲国の分離によるものと仮定し、1936年の輸入に1.254，輸出に1.405を乗じて、1929年－36年の減少率を計算すると

実質輸入減少率年平均	5.29%
実質輸出減少率年平均	1.98%

となるからである。

この他に、1911年の辛亥革命以後については、内戦の影響が中国経済の成長に悪い影響を及ぼしたのであることが考えられなくてはならない。

これに対し、第一次大戦前の時期である1901－

10年には、実質輸入は年4.1%，実質輸出は年5.1%と相当に高い率で成長していたことが目につく。同期間の日本の実質輸入増率は年平均4.4%，実質輸出増率は、7.1%であったので⁽²⁾，中国の貿易成長率は、日本のそれに近い水準に達していたと言えるであろう。更に又、輸入の動きは、国内経済活動の動向を反映すると考えられるが、両大戦間の前半期である1921－29年には、中国の実質輸入は年5.0%もの伸びを示している。

ここで、対象とする時期の1890－1913年にしぼって、上海の輸移出入について見てみることにしよう。表3が、それを示す。

表3。上海の輸出入及び移出入、1892－1911年（百万海関両）

年	輸移入額		上海付近産品輸移出額		左の合計	再輸移出額
	外国より 輸 入*	中国他港 より移入	外国へ 輸出*	中国他港 へ 移 出		
1892	82.0	46.0	24.8	14.0	166.8	104.4
1901	158.9	77.0	36.5	26.0	298.5	180.0
1909	192.1	164.5	52.8	39.9	449.3	288.1

* 外国は香港を含む。

（出所）外務省通商局、『通商彙纂』明治35年9月29日号，pp.18－9および
明治44年11月17日号，pp.9－10

表3によると、1892年の上海の輸移出入額のグロスの合計は、271.2百万海関両、1901年は478.5百万海関両、1909年は、737.4百万海関両となる。南開大学の推定した中国の輸出価格指数（1913年＝100）と輸入価格指数（同）の1892年の数値の和を2で除すると、45.5，1901年は73.0，1909年は92.8となる。これを用いて輸移出入の実質の数字をとると、次のようになる。

（単位百万海関両）

1892年	596.0
1901年	655.5
1909年	794.6

これを用いて年平均の増加率（複利計算）をとると、次のとおりである。

1892 — 1901年	1.06%
1901 — 1909年	2.43%

ここでも、1900年代になって、活動の加速化がみられる。この取引増は、もちろん、その資金繰りのための資金需要増を伴う。また、諸外国との取引は、中国通貨と外国通貨の交換、手形取立

などのサービスに対する需要増を引きおこす。ここに、商業銀行および外国為替銀行の存在の必要性が生ずるわけである。大まかに言って、中国と外国との取引に伴って必要となる資金とサービスを提供したものが、外国系銀行の在上海店舗（ただし、中国系の中国通商銀行も外国系銀行と同じサービスを提供していた）であり、上海と中国の他港との間の取引および上海内での大口の取引のために資金とサービスを提供したのが、中国の伝統的商業銀行であった錢莊である。

II

中国に最初に店舗を進出させた英系銀行は、オリエンタル銀行 The Oriental Bank Corporation であった。この銀行の設立は1842年であったが、1845年に香港支店が設置された。同行はミスマネジメントによって1884年に破産整理され、第二会社としてニュー・オリエンタル銀行 The New Oriental Bank Corporation Ltd がつくられたが、

この銀行も1892年に破産した。第二番目に中国に進出した英系銀行は、チャータード・マーカンタイル銀行 The Chartered Mercantile Bank of India, London and China (1853年にロイアル・チャーターをうけた) であり、同行の上海支店は、1854年に業務を開始した。第三番目に中国に進出したのは、チャータード銀行 The Chartered Bank of India, Australia and China (1853年にロイアル・チャーターを受けた) である。同行の上海支店は1858年に営業を始めた。第四番目が香港上海銀行 The Hongkong and Shanghai Banking Corporation である。同行は1865年に香港の植民地法によって設立され、香港と上海で同年に同時に営業を開始した。なお、チャータード・マーカンタイル銀行は、1893年に経営危機で倒産し、マーカンタイル銀行 The Mercantile Bank of India として再出発し上海店を閉鎖したが、1915年にこれを再開し、1984年に香港上海銀行に合併された。チャータード銀行は、1970年に南アフリカ系のスタンダード銀行と合併して、現在はスタンダード・チャータード銀行となっている⁽³⁾。

20世紀初頭の上海では、上記2行の英系銀行の支店の他に、外国系の銀行9行が店舗を有していた。すなわち、次のとおりである。

ドイツ・アジア銀行 Die Deutsch-Asiatische Bank

露清銀行 The Russo-Chinese Bank

インドシナ銀行 La Banque de l'Indochine

横浜正金銀行

オランダ商業銀行 Neederlandsche Handel Maatschappij

華比銀行 La Banque Sino-Belge

インターナショナル・バンキング・コーポレーション International Banking Corp

ギャランティー・トラスト・カンパニー・オブ・ニューヨーク Guaranty Trust Co. of New York

イタリア植民地会社 Società Coloniale Italiana

先にのべた如く、中国系の中国通商銀行も、これら外国系銀行と同種の業務を行っていたので、英系2行、その他外国系9行、中国系1行の計12行が上海における外国為替銀行のグループを作っていた。

中国の輸出入合計は、1890年の211百万海関両→1913年980百万海関両と名目タームでは4.6倍に伸びた。ただし、銀価下落のため、英ポンド換算では、表4のとうりになる。

表4。中国の輸出入、英ポンド換算、1890—1913年
(百万海関両・ポンド)

年	輸入	輸出	合計	年間平均 為替相場 £ 1 =	英ポンド 換算 輸出入額
(海関両)					
1890	109.6	101.2	210.8	3.573	59.0
1901	237.9	189.9	427.8	6.727	63.6
1910	463.1	386.5	849.6	7.441	114.2
1913	570.3	409.6	979.9	6.630	147.8

(出所) 輸出入額は、Hsiao Liang-lin, op. cit., pp. 268-9

為替相場は、Rainer Gömmel and Jürgen Steiner, *Währung der Welt* IV, Stuttgart. 1992, pp.153-4 (ただし、4か月物手形のレート、原表は、上海両建ての数字であるので、1海関両=1.114上海両として計算した)

表4の数字による中国輸出入の成長率(英ポンド建)は次のようになる(複利計算)。

1890—1901年平均	0.68%
1901—1910年平均	6.72%
1910—13年平均	8.97%

ここでも、20世紀初頭に中国の対外貿易が大きく加速したことが示されている。このことは、中国所在の外国為替銀行のためのビジネス・チャンスが急速に増大したことを示す。この他に、20世紀初頭には諸外国の対中投資が急増した。特に、中国の鉄道網はこの時代にそその基礎がきづかれた。中国の賠償金支払いと外債の元利払いは、外国為替銀行の業務の急拡大に導いた。上記の英系3行のうち、上海支店のバランス・シートの数字を時系列として取りえたのは、チャータード・バンク上海店のみであるが、そのバランス・シート合計額を表5として示すことにしよう。

表5。チャータード銀行上海支店バランス・シート
合計額、1890—1913年
(千上海両・千英ポンド)

年・月	バランス・シート合計額		為替相場 (4か月物手形)
	(上海両建て)	(英ポンド建て)	£ 1 =
1890・6	3,643	852	4.277 上海両
1890・12	3,940	951	4.143 〃
1901・6	7,176	968	7.414 〃
1901・12	6,856	850	8.068 〃
1910・6	12,633	1,523	8.294 〃
1910・12	8,922	1,113	8.017 〃
1913・6	17,807	2,411	7.385 〃
1913・12	16,339	2,136	7.650 〃

(出所) 為替相場は、Gömmel and Jürgen, op. cit., pp. 153-4

バランス・シートの数字は、ロンドンのギルドホール図書館所蔵のチャータード銀行内部資料（現在は未整理、カタログ番号なし）による。

表5により、チャータード銀行上海支店の6月と12月の英ポンド建てバランス・シート合計の平均をとると、次のようになる。

1890年	902千ポンド
1901年	909千ポンド
1910年	1,318千ポンド
1913年	2,274千ポンド

見られる如く、1890—1901年にはこの店舗のポンド建営業規模は全く成長していないが、1901—10年平均（複利計算）では、年4.21%、1910—13年平均では19.94%の増大を示している。言うまでもなく、外国為替銀行の営業規模は、輸出入のみにによって決定されるわけではない。辛亥革命の1911年以後には、民国政府の財政赤字を助けるための、いわゆる「善後借款」を始めとして多額の外国資本が中国に流入した。その上に、中国人、外国人の短期資金の外国への逃避などもあったであろうから、1910—13年の急成長は一時的な現象と考えなくてはならない。しかし、1901—10年の成長は、そのような一時的要因によるものではなく、中国経済の成長に伴う輸出入と外国の対中国直接投資の増を反映するものであったと考えてよいであろう。

更に当然のことであるが、上海に所在していた12

行の外国為替銀行の中の1行にすぎないチャータード銀行の営業の規模は、他の外国為替銀行との競争の状況によって影響をうける。しかも、チャータード銀行上海支店は、上海所在の同種銀行の中で最大手ではなかった。最大手は香港上海銀行上海支店であったと考えられるが、その1911年3月末のバランス・シート合計は、74.925千上海両＝9,014千英ポンドであった⁽⁴⁾。表5によると、チャータード銀行上海店の1910年12月末のバランス・シート合計は、8,922千上海両＝1,113千英ポンドなので、香港上海銀行上海支店は、チャータード銀行上海支店の8倍強の営業規模であったこととなる。ついであるが、上海店バランス・シート合計の全行バランス・シート合計に対する比率は、次のとおりである。

チャータード銀行（1910年12月末）	4.8%
香港上海銀行（上海店は1911年3月末、全行は1910年12月末）	28.4%

となっていて、香港上海銀行における上海支店の重要性が明白になる⁽⁵⁾。ただし、これらの比率は、本支店間勘定を差引いてないので、相当の過大評価になっている。しかし、銀行間の比較のためには、この比率でも有用であろう。

それでは、これら銀行の上海支店は具体的にはどのような業務を営んでいたものであろうか。いうまでもなく、外国為替銀行の基本的業務は居住者の外貨建対外債権の買取と居住者の対外支払用の外貨建送金手段の売却である。商品取引に則していうならば、対象とする時代では、居住者である輸出者が輸入者（在外国）に対して振出した為替手形（外貨建）の現地通貨を対価とする買取りと、居住者である輸入者の在外輸出者に対する支払手段（主としてはその銀行の在外本支店又はコルレス先他行あての外貨建送金手形）の現地通貨を対価とする売渡しである。これらの取引を行うことの結果は、買取った外国宛為替手形の金額だけ、その銀行店舗の在外本支店に対する債権をふやし、売渡した送金手形の金額だけ在外店に対する債務をふやすことになる。簡単にするために、ロンドン本店と上海支店だけで営業している銀行を考えれば、この銀行の上海店は上海両を対価としてロンドン払いの英ポンド建為替手形を買って、これを本店に送付して本店に対する預け金をふやす

(本店での上海店よりの預り金貸記)。この結果、上海店の手持ちの上海両は減少する。他方、ロンドン払いの銀行為替 drafts を上海両を対価として売却すれば、その分だけ本店における預け金が減少する(同預り金借記)、又は預け金残高が不足であれば、当座借越しのポジションになる。この場合は、上海店の手元の上海両は増大することになる。商品輸出入以外の取引は存在しなかったものと仮定すれば、在中国外国為替銀行の対ロンドン・ポジションは、中国の対英輸出増 → 在中店舗のロンドン店における預け金増、中国の対英輸入増 → 同預け金減又はロンドン店からの当座借越増となるわけである。

これを主要業務として、様々な附随的業務が営まれる。顧客の振出した外国宛為替手形を買取るのではなく、代理取立を請負って手数料受取る業務、逆に他店から回送されてきた中国居住者あての手形の代金の取立て、旅行信用状の発行などの他に、輸出用商品の集荷、在庫の金ぐりのため

の貸付、輸入商品の内陸での売却までの在庫の金融、輸出商、輸入商の当座預金の受入、一時的余裕金の通知、定期預金としての受入、居住者の個人的貯蓄の貯蓄預金としての受入などである。注意すべきことは、これら預金／貸出業務は、あくまでも外国為替取引に附随する業務であり、例えば貸付は、その取引が結局は外国為替売買に結びつく限りにおいて行なわれるのが普通であるということである⁽⁶⁾。ここに、外国為替銀行と通常の国内商業銀行との本質的な差が存在する。国内銀行にとっては、預金の受入れと貸出が主要業務であるので、バランス・シート合計に対する預金と貸出の比率は非常に高い。ところが、外国為替銀行では、預金と貸出のバランス・シート合計に対する比率は極めて低いのが普通である。チャータード銀行上海支店の1910年12月のバランス・シートをとると表6のようになっている。また、損益勘定をみると、為替取引による利益の重要性が明白になる。これを表7として示す。

表6。チャータード銀行上海支店バランス・シート主要項目、1910年12月末(千上海両)

銀行券発行額	395	手元现金・他行預け金	802
当座預金	2,950	地金銀	1,301
その他預金	1,290	受取手形	284
ロンドン為替勘定	222	当座貸越・貸付	980
取立手形	3,715	固定貸付	848
利付き手形前受金	106	現地銀行貸付(チョップ・ローン)	605
		アメリカ為替勘定	128
		本店等勘定取立利付為替手形	3,715
		他店預け金	183
その他項目共合計	8,922	その他項目共合計	8,922

(出所) ロンドン・ギンド・ホール図書館所蔵資料

表7。同銀行同店損益勘定、1910年下半期(千上海両)

	借 方	貸 方
利子		6
為替		361
手数料		3
ブローカー手数料	26	
ロンドン為替勘定リベイト	138	
調整項目	90	
その他	19	
計	273	370
		-273
	粗利益	96
	経費等	-53
		43
	漢口店損失	-7
	純利益	37 = £4,293

(出所) 表6と同じ。

表6によると、発券+預金=4,635千上海両はバランス・シート合計額の52.0%にすぎない。また貸出は、計2,433千上海両で、同じく27.3%である。注目すべきことは、現金+預け金+地金銀が、2,103千上海両とバランス・シート合計の23.6%にもなっていることである。このために、受取利息は少なく、表7によると受取利息-支払利息は6千上海両にしかっていない。

なお又、表6には示されていないが、先物為替の買予約が4,062千上海両（うち4ヵ月物手形、2,995千上海両）、売予約が、3,780千上海両（すべて電信為替）に達している⁽⁷⁾。

そして、発券+預金のバランス・シート合計に対する比率は、大きく変動する。例えば、1913年12月末では、発券+預金=6,182千上海両に対し、バランス・シート合計は、16,389千上海両となっていて、前者は後者の37.7%にしかっていない。要するに、外国為替銀行はサービス取引主体の銀行であり、預金銀行業は、その付随業務として営まれるにすぎなかったのである。その業績は、当然のことながら貿易を中心とする対外取引の増減に規定されていた。中国の対外取引の増は、そ

の利益の増に直結し、他方、対外取引を円滑に行なうサービスの提供が、その主要業務である限り、外国為替銀行の存在は中国の経済成長にとって不可欠のものであったと言えよう。

III

しかしながら、外国銀行（以下、中国通商銀行を含めて、外国為替銀行を外銀と省略する）は上海における商業取引の金融業務を独占することはできなかった。中国人間の取引の金融は、中国の在来銀行である錢莊によって行われていたからである。外国銀行は、外国為替業務のほか、在上海の外国人商人（洋行）間の取引、在上海の各種の外国系公益企業、産業企業（例えば綿業、造船など）の取引の金融に従事し、洋行と中国人商人の間の取引の金融が、錢莊と外国系銀行の接点であったといえるであろう。これらの取引の相対的大きさについて一つの示唆を与えるのが、海関の公表した貿易統計である。1909年について、それは表8のようであった。

表8。上海における取引状況、1909年（百万海関両）

外国人商人が関係すると思われる取引	
外国品：外国よりの輸入	192.1
外国への再輸出	7.3
中国産品：外国への輸出	153.3
合計	352.7
中国人商人が主として取り扱うと思われる取引	
外国品：中国各港への再移出	139.2
中国各港より移入	1.3
中国産品：中国各港より移入	136.2
中国各港への再移出	81.0
合計	357.7

（出所）外務省通商局『通商彙纂』明治44年11月17日号，
pp. 9-10

表8によると、外国商人の取引額と中国商人のそれとがほぼ同じ数字になっているが、表8では上海内部の取引が欠落していることも考えなくてはならないであろう。上海内部の取引としては、次のようなものが重要である筈である。

- （1） 中国商人の洋行への輸出商品売却
- （2） 洋行の中国商人への輸入商品の売却
- （3） 中国商人間の取引

（4） 洋行間の取引

このうち（4）は多分大きな額には達しないから、これは無視できるであろう。（1）と（2）は中国商人取引額≡洋行取引額なので、中国商人の取引規模と洋行のそれとの相対的大きさを変えないものではない。問題は（3）である。これは、相当の大きさになる筈であるが、その規模を推定しうるための資料が存在しない。我々は、中国商

人取引額＞洋行取引額ということで満足するほかない。

さて、この中国商人間の取引の金融を行っていたのが錢莊（又は銀号）と称される中国土着の伝統金融機関である。外国人はこれらのうち一流のものを土着銀行 native banks と呼んでいた。錢莊は、大きくいって一流～三流に分けられるが、そのうち一流のものは、上海の南市で錢業公所、北市で錢業會館と呼ばれた銀行ギルドを組織していた。この二つのギルドは滙劃總會という手形交換所をもうけていたが手形交換所の加盟錢莊（滙劃莊）は1897年に41行（莊というべきであるが、日本で呼び易い数え方をとる）、1909年135行、1912年24行、1928年87行⁽⁸⁾と大きく増減した。これら銀行はすべて個人経営又は合名会社組織であったので、バランス・シートを公表していなかった。そこで、錢莊の業務の実態は秘密のとばりに包まれていたが、1960年になって中国人民銀行上

海銀行が『上海錢莊史料』を出版し、1950年代まで残存していた錢莊3行の過去のバランス・シートを公表した。これによると、福康、順康、恒興の1907年のバランス・シートの合計をとると、次のようになっている。

	(千上海両)
資本金	70
準備金・繰越利益金	50
預金	1,587
他行よりの預り金	723
貸付	2,057
他行への預け金	513
外銀よりの借入	225
外銀への預け金	10

1905—13年のこの3行の各行別バランス・シートは表9に示される。

表9。錢莊3行のバランス・シート（千上海両）

年	1905	1906	1907	1908	1909	1910	1911	1912	1913
(福康錢莊)									
資本金	20	20	20	20	20	20	20	80	80
準備金・繰越利益金	42	52	44	30	22	26	100	21	40
預金	768	825	817	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.
他行よりの預り金	120	147	282	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.
うち外国銀行	n. a.	34	103	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.
貸付	870	931	1,041	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.
他行への預け金	120	54	106	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.
うち外国銀行	0	0	10	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.
(順康錢莊)									
資本金	20	20	20	20	20	20	20	40	40
準備金・繰越利益金	16	26	3	23	5	21	-12	-10	30
預金	283	536	287	155	237	279	492	n. a.	n. a.
他行よりの預り金	241	224	338	377	859	407	93	n. a.	n. a.
うち外国銀行	0	15	122	41	297	100	?	n. a.	n. a.
貸付	453	733	489	567	988	689	460	n. a.	n. a.
他行への預け金	102	67	203	3	124	4	43	n. a.	n. a.
うち外国銀行	0	0	0	0	0	0	7	n. a.	n. a.
(恒興錢莊)									
資本金	30	30	30	30	30	30	30	100	100
準備金・繰越利益金	10	12	3	8	16	20	12	9	22
預金	556	531	483	510	689	840	540	563	582
他行よりの預り金	93	45	103	160	95	145	302	96	45
うち外国銀行	0	0	0	0	0	0	0	0	0
貸付	402	452	527	484	597	675	113	278	408
他行への預け金	70	149	204	89	111	151	151	6	98
うち外国銀行	0	0	0	0	0	0	150	0	0

(出所) 中国人民銀行上海市分行編『上海錢莊史料』上海人民出版社, 1960, pp. 775-837

これら錢莊の貸付は、借手にその錢莊の莊票（錢莊の約手。即時払又は10日以内の期日払）を与えることによって行なわれ、借手はその莊票を自らの債権者に引き渡すことによって決済を行ない、莊票を受け取ったものは、それを自らの取引錢莊の預金口座に入金する。このプロセスが、預金創造に結果することは見易いことである。錢莊は、その本質において、近代的商業銀行であったと考えられる。

貸付だけでなく、預金者が預金を第三者に対する支払いのために用いる場合、引出は莊票を受取る形ちで行なわれた。小切手（支票）を用いる場合もあったが、莊票は錢莊自身の支払約束であるから、小切手より信用度が高かった。莊票や小切手が、借入者・預金者の取引相手に支払われ、それが彼らの取引錢莊に預入されるので、錢莊相互間の債権債務の関係が生じ、その清算が錢業公所と錢業会館における滙劃総会で行なわれた。交換所は、これら交換所における各錢莊の口座に貸記又は借記され、年四回の節季に現銀で清算された。この方法で現銀による清算の必要は最低限に節約されていたのである。手形交換は中国語で滙劃

（フイ・ファ）であるので、手形交換所加盟の錢莊を滙劃莊と称した。交換所に加盟しえない錢莊と外国銀行および後には中国系株式銀行は、滙劃莊に預金を置いて、代理交換をしてもらうことになっていた。表9における他行よりの預かり金の一部は、このための預金残高である⁽⁹⁾。

外国系銀行が滙劃莊の手形交換を利用せざるをえないのは、洋行が輸入商品を中国商人に売却した場合、代金が莊票で支払われたからである。洋行はその莊票を取引外銀に預入し、外銀はそれを自らの取引錢莊の預金口座に払込み、錢莊はその莊票を手形交換に出す。外銀は錢莊における預金残高が一定の数字を上回ると、その分を現銀で引出していたようである。しかしながら、錢莊は一般に大量の現銀準備を手元に有していなかった。表10は1898年～1911年の外銀と錢莊を含む全銀行の現銀と錢莊のみの現銀準備とを示しているが、1898年～1903年の間に錢莊の現銀は、最大で4,380千上海兩（1901年3月）であったが、この時に外銀の現銀準備は、11,815千上海兩とはるかにこれを上回っていた。そして、通常は、錢莊の現銀は300～2,000千上海兩程度にすぎなかった⁽¹⁰⁾。

表10. 在上海外国銀行（含む通商銀行）および錢莊の保有現銀および錢莊借入金（千上海兩）
1898—1910年

年・月末	内外銀行現銀計			うち錢莊現銀		錢莊借入金		チョップ・ローン金利
	両銀 (馬蹄銀)	墨銀*	銀塊	両銀 (馬蹄銀)	墨銀*	チョップ・ローン	ダラー・ローン	
1898・1	3,050	1,008	399	1,500	576	450	0	
2	3,335	1,516	229	500	576	1,915		
3	3,364*	2,077*						
4	4,610*	1,789*				4,240		
5	4,540*	914*				5,500		
6	1,870	922	354			4,050	100	19.00
7	3,165	936				3,530	170	3.63
8	2,445	1,051	198	70	144	4,210	150	11.00
9	3,400	1,458	0			4,015	625	11.00
10	5,270	1,602	263	100	216	2,980	290	5.75
11	2,808	1,382	77	400	144	2,995	355	8.00
12	3,115	1,141	77	150	288	865		6.56**
1899・1	3,115	1,836	384			304	61	
2	3,630	2,333	942	1,850	1,080	0	21	
3	4,540	2,210	328	400	360	2,130	442	3.25
4 (av.)	4,109	4,274	53			2,403	760	
5 (av.)	4,526	4,213	362			4,069	985	
6 (av.)	4,296	2,144	425	300+	360+	5,666	278	5.08
7	4,930	2,686	157	600	500	2,035	310	
8	4,880	2,426	335	864	720	3,820	160	2.69**
9								
10								

年・月末	内外銀行現銀計			うち錢莊現銀		錢莊借入金		チョップ・ ローン金利
	両銀 (馬蹄銀)	墨銀*	銀塊	両銀 (馬蹄銀)	墨銀*	チョップ・ ローン	ダラー・ ローン	
1899・11	1,755	792	0	250	144	0		
12	2,455	1,559	84	800	504	400		3.25
1900・1	2,250	1,469	671	700	576	220		6.13
2	1,040	1,685	414	600	864	800	1,730	
3	3,635	2,696	1,316	300	720	1,160	1,770	
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
1901・1								
2	10,440	6,894	0					
3	8,945	7,250		1,500	2,880			
4	9,030	7,024	1,037	300	2,160			
5				700	1,584			
6				400	1,080	410	0	
7	9,075	6,030		600	0	990	0	
8								
9	8,350	4,864	0	200	432	4,340	190	4.50**
10	8,550	5,076	538	150		3,980	0	
11	7,140	4,496	183	400	576	5,060	0	3.63
12	4,630	3,474	0	700	360	4,480	0	
1902・1	4,900	4,262	245	1,000	720	330	0	
2	6,605	6,134	79	1,000	2,160	1,570	0	
3								
4	9,135	7,258	79	500	3,274	6,120	2,270	
5	10,700	3,269	0	200	360	7,900	0	
6++	10,810	3,398	0	700	360	9,620	0	
7	9,440	4,543	0	300	360	9,175	0	5.44**
8	6,100	4,874		300	216	8,810	530	6.88**
9	7,100	4,162	0	50	742	7,610	350	6.56**
10								
11								
12								
1903・1								
2								
3								
4 (av.)	2,885	3,760				5,650		7.31**
5 (av.)	2,631	3,770		160	1,683	5,277	886	16.81**
6	2,290	1,930	55	200	576	4,830	100	
7	2,070	2,009	0	300	0	1,920	0	12.75**
8	1,160	1,636	0	100	360	2,440	0	12.75**
9	1,270	1,822	414	100	504	4,060	320	14.15**
10	2,820	2,916	0	100	684	4,520	310	12.19**
11	4,780	2,426	0	100	432	2,550	0	9.94**
12	2,570	1,505				5,395 ^s		12.75**
1904・1	2,890	2,066				490		12.56**
2	3,220	4,392				1,560		7.81**
3	7,380	5,969				3,080		4.13**
4♂	8,840	6,430				1,100		4.82 ^g
5	8,400	3,895				2,970		5.50**
6	7,420	3,348				3,090		3.50**

年・月末	内外銀行現銀計			うち錢莊現銀		錢莊借入金		チョップ・ ローン金利
	両銀 (馬蹄銀)	墨銀*	銀塊	両銀 (馬蹄銀)	墨銀*	チョップ・ ローン	ダラー・ ローン	
1904・7	6,630	4,486				4,960		5.65**
8	5,260	5,004				7,390		6.75**
9	3,920	4,061				6,060		8.20**
10	4,710	3,931				5,820		4.20**
11	5,080	3,571				6,200		4.40**
12	4,980	3,550				5,370		8.60**
1905・1	6,740	3,211				1,320		8.20**
2	4,680	4,428				3,100		4.95**
3	4,560	6,444				4,620		5.85**
4	4,820	7,330				5,370		4.20**
5	3,240	6,185				7,535		6.00**
6	4,250	4,615				6,120		6.75**
7	5,530	4,615				7,560		3.65**
8	3,820	4,774				10,010		4.55**
9	2,750	5,278				9,355		8.40**
10	4,000	5,479				10,050		8.20**
11	3,120	3,665				8,640		5.65**
12	5,500	3,586				6,710		6.60**
1906・1	7,260	4,651				700		1.80
2	8,230	5,213				3,130		0.70
3	9,730	6,000				4,290		3.30
4	9,080	5,350				5,920		4.00
5	8,600	3,053				7,310		5.50
6	9,620	2,700				3,470		3.65
7	9,450	2,700				3,333		1.80
8	10,510**	2,887**				6,655**		3.65**
9	10,770**	3,283**				7,915**		3.70**
10	9,985**	3,301**				9,100**		4.70**
11	9,890**	2,894**				11,025**		4.40**
12	9,360**	2,905**				10,660**		5.10**
1907・1	8,960**	3,133**				6,085**		4.00**
2	9,040**	3,766**				3,055**		2.60**
3	6,170	6,998				11,210		5.11
4	7,560	8,849				9,390		4.38
5	7,870	5,234				18,010		4.40
6	8,490	5,652				15,340		6.93
7	9,490	5,566				16,760		9.13
8	5,900	6,235				16,925		8.03
9	8,690	5,314				17,100		6.21
10	12,400	3,125						
11	11,250	2,671						6.39**
12	8,330	2,614						
1908・1	9,090	2,578				800		4.38**
2	9,640	4,399				6,595		3.29**
3	11,270	6,307				14,110		6.21**
4	12,760	8,237				18,215		7.67**
5	13,410	6,113				18,210		5.48**
6	15,910	5,911				20,360		3.47**
7	17,230	6,106				20,975		3.29**
8	16,280	5,414				21,870		5.11
9	15,980	6,200				18,180		5.48
10	19,000	7,092				10,205		8.90**
11	18,230	6,142				2,440		3.29**
12	15,360	5,170				100		3.83**
1909・1	14,890	6,242				0		1.46**
2	14,440	7,452				1,790		2.56**

年・月末	内外銀行現銀計			うち錢莊現銀		錢莊借入金		チョップ・ ローン金利
	両銀 (馬蹄銀)	墨銀 [#]	銀塊	両銀 (馬蹄銀)	墨銀 [#]	チョップ・ ローン	ダラー・ ローン	
1909・3	15,950	7,848				6,500		2.56**
4	18,430	7,783				6,390		2.92**
5	19,990	5,040				9,535		2.38**
6	20,840	4,853				11,465		4.38**
7	21,510	5,026				10,545		4.20**
8	21,850	5,378	2,394			14,515		2.74**
9	23,300	5,062	2,777			15,515		3.10**
10	21,710	4,111	1,904			12,815		4.75**
11	18,410	3,542	2,242			11,100		5.84**
12	13,320	3,233				9,725		5.84**
1910・1	10,430	2,988				3,530		3.80
2	9,360	4,666	3,539			5,560		2.40
3	7,570	5,825	5,186			8,030		4.38**
4	6,560	6,084	8,442			9,490		6.94**
5	8,500	4,608	5,296			12,260		6.75**
6	9,640	4,536	5,400			11,960		6.20**
7	10,010	5,422	2,393			9,120		8.21**
8	10,300	5,803	2,393			6,820		4.38**
9	10,610	6,408	2,391			5,250		4.02**
10	13,450	6,538	5,600			3,930		4.56**
11	11,200	5,321	6,265			840		2.37**
12	10,890	3,708	6,210			40		0.91**
1911・1	10,470	3,722	8,106			0		
2						0		
3	15,110	6,602	8,795			100**		2.00**
4	18,220	6,818	10,681			1,395**		
5	18,870**	4,889	8,055			2,140**		1.64**
6	19,930	4,200	6,069			4,390**		1.80**
7	21,520	5,036**				5,685**		2.00**
8	21,550**	6,314	6,255**			6,325**		1.64**
9	24,330	6,156	5,723			9,660**		3.29**
10	25,260	4,824	5,686	3,000	1,915	6,062**		5.11
11	24,180	5,213	3,900	3,480	3,074	3,498**		4.38
12	23,950	5,342	1,563	4,060	3,132	3,056**		2.56

墨銀は、メキシコ・ドル貨のことであり、ここでは、1メキシコ・ドル=0.72上海両として換算した。

(av.) 月間平均

* 外国銀行（含む通商銀行）のみ。

** (月間最大値+月間最小値)/2

+ 月末

++ 6月19日. ♂ 5月2日 ♀ 3月と5月の平均

§ 以下ではチョップ・ローンとダラー・ローンを合算した数字。

(出所) 外務省通商局『通商彙纂』各号

そこで錢莊は洋行が外銀に払込んだ莊票についての現銀決済を求められても、常にそれに応じうるような状況ではなかったと考えられる。しかし、他方で中国の輸出商品を扱う中国商人が、その商品を洋行に売却すれば、代金は洋行の取引銀行宛小切手で支払われる。中国商人はこの小切手を取引錢莊の預金口座に入金する。そこで、錢莊は対外銀の債務と債権の双方を有することになるから、

その両者を相殺して、差額のみを現銀で支払い、又は受取ることになるう。

更に又、錢莊は内陸で輸出商品を集荷する中国商人および輸入商品を内陸で販売する中国商人の口座をも有している。内陸の大口取引での支払手段はメキシコ・ドルなどの銀ドル貨が主であるから、商品の輸出期には預金が銀ドルで払戻されて上海から内陸に流出する⁽¹¹⁾。他方、輸入期には輸

入品の販売代金である銀ドル貨が上海に流入する。

これら二つの流れ、つまり外銀—錢莊間と錢莊—内陸間の銀の流れは、もちろん等しい大きさではなく、かつその方向は季節によって逆転する。これ故に、錢莊は外銀又は内陸に対して支払うべき現銀の不足に陥った時には、外銀から現銀を借入れざるをえなかったのである。この借入をチョップ・ローン（借入は折票チャイ・ピャオと称する錢莊の要求支払約束手形を外銀に差入れる形で行なわれ、チャイ・ピャオがなまってチョップになっ

たと言われている）又はダラー・ローン（銀ドル貨抵当借入）と称する。チョップ・ローンとダラー・ローンの数字も表10に示され、かつチョップ・ローンの外銀による貸付金利もそこに示されている。

さて表10の中から月別の数字を中断なしにとれる1904—6年の数字を用いて、在上海外銀および錢莊の手元現銀保有高合計、錢莊借入金、同金利の月別平均と季節指数をとり、かつ錢莊借入金／手元現銀保有高の比率を示すのが、表11である。

三カ年というのは、季節指数の算出のためには

表11. 在上海外国銀行（含む通商銀行）および錢莊の手元現銀、錢莊借入金、同金利、
1904—6年月別平均および季節指数（千上海両、%）

月	現銀在高 平均 (a)	同季節 指 数	錢莊借入金 平均 (b)	同季節 指 数	(b)/(a) %	錢莊借入金 金利平均%	同季節 指 数
1	8,939	82.6	837	14.9	9.4	7.52	141.4
2	10,054	92.9	2,597	46.3	25.8	4.49	84.4
3	13,361	123.5	3,997	71.2	29.9	4.43	83.3
4	13,950	128.9	4,130	73.6	29.6	4.34	81.6
5	11,124	102.8	5,938	105.8	53.4	5.67	106.6
6	10,651	98.4	4,272	75.3	39.7	4.63	87.0
7	11,137	102.9	5,284	94.2	47.4	3.70	69.5
8	10,752	99.4	8,018	142.9	74.6	4.98	93.6
9	10,021	92.6	7,777	138.6	77.6	6.77	127.3
10	10,469	96.8	8,323	148.3	79.5	5.70	107.1
11	9,407	86.9	8,622	153.7	91.7	4.82	90.6
12	9,960	92.1	7,580	135.1	76.1	6.77	127.3

（出所）表10に同じ。

短すぎる期間であるが、データの性質上やむをええなかった。表11によると、外銀と錢莊の保有限銀合計は、年末・年始に落ち込み、春に最大になり、その後5月～10月はほぼ横ばいである。錢莊借入金は、保有現銀合計よりも季節性が強く、1月にはゼロに近く落ち、その後11月に至るまで増加しつづける。錢莊借入金／保有現銀の比率もほぼ同じ動きを示す。他方、金利は2、3、4月に低水準、5月、9月、12月に極大値を示している。しかし、注意すべきことは、現銀と借入金の数字は原則として月末の数字であるが、金利は月中最大値と最小値の仲値をとっていることである。1月の前半は陰暦の歳末に当たっているもので、決済用資金の需要で金利は高騰し、陰暦の正月（春節）をすぎると金利は大幅に下る。そこで1月末の金利は、表10に示されている数字より大幅に低いので、金利の最低点は1月末、2月末の間に出ると考えられる。そして、全体としては、錢莊錢莊借

入金／手形現銀在高の比率が低いと金利は低く、それが高いと高いという関係をもつ。1月を除外して、2月～12月について、この二つの数字の間の単純相関係数をとると、0.613になる。1月について金利の最小値の平均である2.34%を用いて1月～12月についての相関係数をとると0.734という値がえられた。このような順相関がなりたつのは、手元現銀は事後的な短資供給量を示し、錢莊借入金は事後的な短資需要量を示すからである。ただし、錢莊借入金の水準は、これ以外の他の様々な要因の影響をうける。例えば、政治不安は外銀側の貸し渋りを誘発し、上の比率が低くとも、貸付金利は高騰するであろう。

しづれにせよ、表10から上海の外銀・錢莊の手元現銀は春に急増してから漸減していることが分る。これは、おそらく春に内陸から輸入品の代金の現銀が上海に流入してくるからであろう。その後は輸出期になるので、銀は内陸に向って流出し

始める。錢莊借入金は、年始に最低となるが、これは、陰暦の新年の節季に、外銀に対する借入金
が返済されることによる。借入金はその後年末に
向って漸増して行くが、これは輸出品の集荷用代
金の内陸への送付のために、錢莊が外銀から現銀
を借入れることによると思われる。かくして、秋
には現銀減・錢莊借入増のために、金利が上昇し
て行くことになるのである。

以上が、上海の外銀支店と伝統的金融機関である
錢莊との具体的な関係であった。繰り返すなら
ば、それは、(1) 洋行の受取った莊票の外銀への
入金→外銀の錢莊預け金の貸記、(2) 中国
商人の受取った外銀宛小切手の錢莊への入金→
外銀の錢莊預け金の借記、(3) 錢莊への外銀貸
付である。これらの取引を通じて、中国の輸出入
の金融と決済が行なわれ、外銀と錢莊とは互いに
分業関係を持ちつつ、一体となって上海における
支払メカニズムを構成していた、と言うことがで
きる。

IV

それでは、外銀と錢莊の上海における支払メカ
ニズムとしての相対的重要性はどうであったであ
ろうか。すでにのべた如く、外銀は外国為替銀行
としての営業が主体であり、そのバランス・シー
ト合計には、大量のサービス取引と外国為替取
引が含まれているが、これらは対外取引であって、
上海内部での外銀の営業の規模の指標は、預金＋
発券である。その額はどの程度になっていたかが、
次の問題である。

1911年3月31日に香港上海銀行上海支店の預金
は26.6百万上海両であった。チャータード銀行の
1910年12月31日の預金は4.2百万上海両であった。
しかし、他の外銀の預金は不明である。そこで、
全外銀の預金合計を推定するために、次のような
方法を用いるとしよう。すなわち、『通商彙纂』
によると、1909年央の外銀各行の発券は、表11に
示す如くであったと推定されている。

表12. 上海における外国銀行（含む通商銀行）の
推定発券高残高、1909年央

銀 行 名	(千上海両) 発券高
Hongkong and Shanghai Banking Corporation	1,086
The Chartered Bank of India, Australia and China	482
横浜正金銀行	576
Russo-Asiatic Bank	216
Deutsch-Asiatische Bank	288
Neederlandsche Handel Maatschappij (オランダ商業銀行)	72
Banque Sino-Belge	216
International Banking Corporation	144
中国通商銀行	1,080
合計	4,160

注。原表では、銀ドル建ての銀行券と銀両建ての銀行券が区別されていたが、こ
こでは、1メキシコ・ドル=0.72両として、計算した上で合算した。

(出所) 外務省通商局『通商彙纂』明治43年5月5日号、p.48

表12によると、香港上海銀行とチャータード銀
行の発券残日計1,568千上海両で、合計に対して
0.377のシェアである。このシェアが、1910～11
年にも妥当するとし、かつ、両行の預金の全外銀
預金に対するシェアは、発券についてのシェアと
同じであったとしよう。そうであれば、1910年末
～1911年3月の時点の全外銀預金（含む通商銀行）
の預金総額は、2行の預金3,080万両÷0.377＝
8,170万両となる。これに表12の発券総計416万両
を加えると、外銀資金の総額は8,586万両となる

が、これは推定で概算であるので、このように細
かい数字は妥当性を欠いている。外銀資金は86百
万両とおさえておいてよいであろう。

それでは、錢莊の預金はどうかであろうか。これ
についての確実な数字は、表9に示した3行の錢
莊の数字のみである。その1905年の預金は、

福康	768千上海両
順康	283 〃
恒興	556 〃

で、合計1,607千上海両である。ところで、根岸

倍『清国商業綜覧』第四巻によると、1905年には滙劃莊90行が存在していた⁽¹²⁾。このリストからは恒興の名が落ちているが、同書の別のリスト(130ページ)にはそれが入っているので1905年の滙劃莊は91行であったとすることができる。うち90行の1905年の利益総額は、2,085千上海両であったので⁽¹³⁾、これに恒興の分の利益10千両を加え、利益総額は、2,095千両とすることができる。この総計に対して、福康、順康、恒興3行の利益は次のとおりである⁽¹⁴⁾。

福康	25,976両
順康	15,900 〃
恒興	10,078 〃
合計	51,954 〃

この3行の利益金合計の、全91行の利益合計に対する比率は2.48%である。もし、このシェアが預金についてもあてはまるとするならば、1905年の錢莊91行は、この3行の預金1,607千両 \div 0.0248=64,798千両、概数で65百万両となる。また、この3行の1907年の預金は⁽¹⁵⁾、

福康	817千上海両
順康	287 〃
恒興	483 〃
合計	1,587 〃

なので、1907年の滙劃莊の預金総額は、64百万両ということになる。ただし、滙劃莊の中には加えられていなかったが、滙劃莊とはほぼ同一の業務を営み、滙劃莊を通じて手形交換に参加しうる錢莊があった。これらのうち、より大きなものを挑打錢莊、といていたが、これらのものの預金を加えれば、上の59~60百万両を上回る数字になったであろう。

錢莊の預金が大体、数千万両の程度であったことには、香港上海銀行上海支店の買弁の証言がある。上海支店長の本店宛報告書(1908年8月7日)には、次のような文章がある。

「上海には銀行ギルド〔滙劃總會=手形交換所のこと〕に登録された現地銀行 native banks が100行以上ある。買弁は、彼らの平均預金は一行当たり例えば80万であると推定する。すなわち8,000万である。そして彼らの貸付総計は、8,000万/9,000万であると彼はいう。」⁽¹⁶⁾

もちろん、これらの数字は、私の推定を含めて

極めて粗雑な推定であるので、一応の目安にすぎないが、1910~11年の外銀預金+発券=86百万両、錢莊預金(1908年)80百万両と、ほぼ同じ水準の数字が出たことになる。これは偶然なのであろうか? 商品の外国への輸出入の金融は外銀の扱う所であり、輸出商品の集荷と輸入商品の内陸への販売は錢莊の扱う所であったのであるから、外銀の資金量と錢莊のそれとが接近した値を示すことは、上海の取引の性格上、当然のことであったのではないだろうか。表8は、1909年における上海の取引で外国人商品の関与する取引を352.7百万両、中国人商人のそれを357.7百万両と推定した。もちろん、この他に上海内部での取引があるが、そのうちの小売取引の金融は滙劃莊などの大手錢莊の扱う所ではなかった。

1910年末~1911年初の外銀の預金+発券は86百万両、錢莊の預金は80百万両、合わせて166百万両と考えて、次にこの166百万両の取引流通速度を推定して見よう。1910年の上海港の輸移出入の状況は次のとおりであった。(『通商彙纂』明治45年46号, pp. 14-5)

外国からの輸入	199.7百万海関両
中国他港からの移入	176.5 〃
外国への輸出	184.2 〃
中国他港への移出	208.9 〃
合 計	769.3 〃

1海関両=1.114上海両が公式の換算レートなので、769.3百万海関両は、857百万上海両に等しい。もし、外国との輸出入、中国他港との移出入のみが上海の取引であったとすると、166百万上海両の取引流通速度は5.16であったことになる。しかしながら、先にのべたように上海内部での取引があり商品取引は例えば洋行-中国商人-内陸への移出商というように二重、三重の取引を含み、かつ商品取引以外の各種の取引があったので、5.16という流通速度は最低の推定値である。その上に、857百万上海両は海関を通過した商品の数字であり、在来船であるジャンクによる輸移出入は、そこに含まれていないことも考えなくてはならない。これらのことを考慮に入れると、実際の取引流通速度は、10程度であったかもしれない。いずれにせよ、5~10という流通速度は常識的なレンジの中の数値である。なお、ここで取引と

いっているのは卸売・大口取引であって、小売取引は含まれていない。この種の取引の支払手段は銅銭であり、莊票などの信用貨幣は、それとは無縁であった。

V

上記では、外銀の業務のいま一つの側面である中国の外債発行にふれていない。しかし、中国の資本輸入額は、それほど大きなものではなかった。C. F. リーマーによると⁽¹⁷⁾、中国への外国の投資は、次のとおりであった。

1902年 161.9百万ポンド
(うち直接投資103.4百万ポンド)
1914年 330.9 〃
(うち直接投資219.4百万ポンド)

この額は、1914年における英国の対外投資40億ポンド、フランスの20億ポンド、ドイツの10億ポンドと比べて、相対的に小さなものでしかない。その上に、1914年の330.9百万ポンドのうち219.4百万ポンドは直接投資であって、外国での証券発行を伴わなかったであろう。更に、直接投資の一部は留保利潤の再投資によって成長していた。

1902-13年においては、年平均113.8百万円(1元=1メキシコ・ドル)の資本流入があったと推定されている。これは当時の為替相場で約11百万ポンドである。他方、158.5百万円÷16百万ポンドもの資本流出と借入資本についての元利払いがあったとされている⁽¹⁸⁾。だから、ネットでは資本は中国に流入していなかったことになる。しかし、ここでの問題、すなわち外銀の業務にとっての対外資本取引の重要性という問題にとっては、資本の純流入があったのかどうかは重要なことではない。問題は、これらの資金のフローが外国の対中投資によって生み出され、それは当然に外銀の外国為替業務の成長に寄与した、ということである。この資本・サービス勘定での27百万ポンドという額は、1913年の中国の輸出入973百万海関両=122百万ポンドと比べて小さな額ではない。更に、この他に中国は、年3百万ポンドの義和団の乱による賠償金を支払わなくてはならなかった。

中国の外債発行が本格化したのは、1895年における日清戦争賠償金2億3千万庫平両(100庫平

両=109.6上海両=101.6海関両)の支払の義務が生じてからである。この支払いのために外債を1895、1896、1898年に発行し、その金額は、第一回が、4億フラン=15.82百万ポンド、第二回は16百万ポンド、第三回が16百万ポンド、合計47.82百万ポンドであった(うち日本への支払は38百万ポンド)⁽¹⁹⁾。これ以後、鉄道建設、政府支出などのために相ついで外債が発行され、1914年に外国人の保有する中国政府債は108百万ポンドに達した。すなわち表13に示すとうりである。

表13. 外国人の中国政府債保有額(百万英ポンド)

	1902年	1914年
一般的目的のための政府債	51.0	67.9
鉄道債	7.3	39.5
鉄道以外の交通	0.2	0.7
合計	58.5	108.1

注。原表は、米ドル表示であるが、£1=\$4.866で、英ポンドに換算した。

(出所) C. F. Remer, *Foreign Investments in China*, London, 1933, reprinted in New York, 1968, p.135 (Table 15)

これらの外債発行のための引受シンジケートの参加銀行と幹事銀行は、それぞれ手数料を受取るとともに、有利な証券投資をするチャンスを与えられた。その上に、先にも述べたとうり事後の元利払いの代行の手数料を受取ることが出来る。又、新発証券の発行手取金は、当座の間、発行シンジケートの幹事銀行に預入されるので、証券発行は、銀行にとって極めて有利な取引であった。

とはいえ、証券発行は事柄の本質上断続的にしか生じない業務である。また、表13によると中国政府の外債残高は、1902年-14年の間に49.6百万ポンドふえているが、これは年平均3.8百万ポンドにしかならない。これに対し、1910年の中国の輸出入合計は、表1に示した如く、計1,307百万円=964百万上海両=114百万ポンドで、輸出入は外債発行の数十倍に達している。外債発行は、在中国の外銀にとっての主要な利益源泉とはなりえなかったのである。貿易その他の經常取引の金融と、それに伴う外国為替取引こそが、在中外銀の主業務であり、利益の主たる源泉であった。

VI

以上から明らかになったことは、在上海の英系銀行を中心とする外銀は、外国為替取引、外国貿易の金融、在上海の外国系企業の金融に特化し、輸出商品の内陸での集荷、輸入商品の対内陸販売、中国商人間の取引の金融は錢莊が行っていた。外銀と錢莊の間の関係は、外銀が洋行から莊票を受取ると、洋行の預け金口座を貸記した上で、外銀の取引錢莊の預金口座に莊票を入金し、この錢莊を代理として莊票を手形交換に出すこと、逆に中国商人が洋行から受取った外銀宛小切手を錢莊が受入れて、その取立を代行することを基本としていた。その上で、錢莊が内陸で集荷された輸出商品の代金としての現銀を払出すことにより、錢莊の手元現銀が不足すれば、外銀は拆票を担保として錢莊に現金を貸し付けていた。この貸付は、表11によれば夏から秋に大きくふえていた。しかし冬から春にかけては、輸入商品の代金としての現銀が上海の錢莊の手元に流入し、錢莊はこれによって先に外銀から借入れた借入金を返済する。このようにして、在上海の外銀と従来の金融機関である錢莊との間には有機的分業の関係がなり立っていたと言えることができる。このような近代セクターと伝統セクターの相互依存の関係は、中国経済の至る所で見られていた。例えば、内陸での動力船の運航開始は、動力船の立寄る河港への商品輸送のためのジャンクによる水運の発展を刺激する。この事は、トマス・G・ラウスキーの力説強調する所である⁽²⁰⁾。アルバート・フォイアーワーカーを中心とするかつての欧米の研究者達は、沿海部中国の都市における近代工業と近代経済セクターの発展が遅れて停滞的な農村によって足かせをはめられ、阻害されているのだ、としていた⁽²¹⁾。しかしながら、すでに述べた如く、20世紀初頭における中国の実質輸出入の相対的高成長と輸出商品構成の複雑化とは、中国の農村経済そのものが、ある程度の成長を実現しつつあったことを示している。フォイアーワーカー自身が最近では戦前中国の農村を含む全経済の成長を強調するラウスキーの見解に近い見方をするようになってきている⁽²²⁾。

在上海の英系銀その他の外銀は、中国経済のこの成長によって必要となった資金とサービスを

提供することによって自らの利益を実現していたのであり、帝国主義的侵略と搾取の用具としてのみ外銀を見ることは、実態の本質をとらえる努力にとってマイナスの影響しか与えないであろう。むしろ、問題とすべきことは、中国の官督商弁企業、すなわち半官半民の銀行であった中国通商銀行が、その外国為替業務を成長させて、我国の横浜正金銀行と同じような存在になれなかったのは何故か、ということである。その大きな原因の一つは、正金銀行は日本政府および日本銀行の強力な支援を受けることができたのに、通商銀行は、そのような支持を受けることができなかった所にあるであろう。中国における強力な政府の欠如が、中国の経済成長にとってマイナス要因であったということは、しばしば指摘される所であるが、その具体的な例の一つが、中国系外国為替銀行であった通商銀行の伸びなやみであった。

注

- (1) ラウスキーは、1910-36年の中国のM2は、年率4.4~5.6%でふえ、この間に物価は年2%上昇したので、実質国民所得は年2.4~3.6%成長したことになるという。Thomas G. Rawski, *Economic Development in Prewar China*, Berkeley, California, 1989, p.162。しかし、上海だけの外銀と錢莊の預金量の推定ですら著しい困難が伴わない、信頼性の余り高くない推定値しかえられないのであるから、中国全土の錢莊預金の推定は不可能に近い。1910~36年のM2の増率4.4~5.6%という数字は、実質所成長率の推定の基礎としては余りにも脆弱なものである。
- (2) 山沢逸平・山本有造、『長期経済統計14——貿易と国際収支』、東洋経済新報社、1979年、p.185, p.189
- (3) 以上の上海店営業開始の年は、Stuart Muirhead, *Crisis Banking in the East-The History of the Chartered Mercantile Bank of India, London and China, 1853-93*, Aldershot, Hants, 1996, p.45, p.37による。
- (4) 西村閑也、「中国における国際銀行業、1890-1913年」(『経営志林』、第32巻第4号、1996年1月、pp.4-5)

- (5) 香港上海銀行とチャータード銀行の銀行バラス・シートは、*The Bankers' Magazine* の当該年の号から取った。
- (6) 1950年代になっても、英系東方為替銀行（香港上海銀行、チャータード銀行、チャータード・マーカンタイル銀行など）は、外国為替業務に結びつかないような便宜を顧客に提供することは消極的であった。S. Muirhead, op. cit., p.19を見よ。
- (7) ロンドン・ギルドホール図書館所蔵資料による。
- (8) 外務省通商局、『通商彙纂』による。これは領事報告を収録した週刊の出版物である。又、1928年の数字は李権時・趙謂人『上海之錢莊』上海、1929年、（復刻、台北、1978年）、pp. 4-5による。
- (9) Susan Mann Jones は、次のように言う。「手形交換所の使用は、ギルドの会員に限られていたので、外国銀行は手形交換のプロセスを利用するためには、ギルド会員である錢莊の少なくとも一行に口座を有していなければならなかった。…土着銀行と外国銀行の間の関係についての買弁と土着銀行ギルドの力は、外国銀行がチョップ・ローンを通じて土着貨幣市場を操り、コントロールしたという通俗的な考えを裏切るものである。」Susan M Jones, 'Finance in Ningpo: the Ch'ien Chuang, 1750-1880', in W. E. Willmott (ed.), *Economic Organization in Chinese Society*, Stanford, 1922, p.72

- (10) 表10の数字の出所は、外務省通商局『通商彙纂』であるが、これらの数字は全面的に信頼するものではない。第一に明らかなミス・プリントがいくつかある——表10では、それは修正されている。第二に、錢莊の現銀準備の数字は明らかに推測に基づくものである。第三に、『通商彙纂』の数字は、時によって大きなギャップがあり、一貫した時系列をとることができない。

これらの数字は、多分『ノース・チャイナ・ヘラルド』又は他の出版物に公表されていたものを、上海領事館の担当者がコピーして本省に報告したものであると思われる。数字の出所をいまだ確かめることができずにいるが、これは将来の課題としておきたい。表10は一応の中間報告である。

更に又、表10の数字は、山川勇木（横浜正金銀行）の「清国出張復命書」1898年に示されているチョップ・ローンの1898年の数字および1905-8年の香港上海銀行上海支店の本店報告書に示されている数字とも多少ことになっている。両者を対比すると、次の表のとうりである。見られる如く、山川の数字および香港上海銀行の数字と『通商彙纂』の数字は、概して一致しない。これは香港上海銀行の数字は、月末に近い日についての数字であるが、月末そのものではないことのために、『通商彙纂』の数字とは日付の食い違いが生じているためである。また、山木の数字は月中平均なのか、月末の数字なのか指示がないので不明である。しかし、いずれにせよ、数字の動きは大体一致してい

チョップ・ローン金額			(千上海両)		
年・月	山川勇木	『通商彙纂』	年・月	香港上海銀行	『通商彙纂』
1898・1	450	450	1905・1	290	1,300
2	1,200	1,915	2	2,556	3,100
3	3,600		3	4,040	4,620
4	3,300	4,240	4	3,340	5,370
5	5,100	5,500	5	6,377	7,535
6	4,100	4,050	6	6,615	6,120
7	4,200	3,530	7	7,670	7,560
8	4,000	4,210	8	11,208	10,010
9	4,000	4,015	9	10,255	9,355
10	3,000	2,980	10	8,510	10,050
11	3,400	2,995	11	8,260	8,640
12	1,200	865	12	6,900	6,710
			1906・1	815	700
			2	2,460	3,130
			3	4,300	4,290

年・月	山川勇木	『通商彙纂』	年・月	香港上海銀行	『通商彙纂』
			1906・4	1,960	5,920
			5	6,460	7,310
			6	3,550	3,470
			7	3,780	3,333
			8	7,690	6,655
			9	12,450	7,915
			10	12,480	9,100
			11	14,905	11,025
			12	8,200	10,660
			1907・1	2,270	6,085
			2	5,041	3,055
			3	11,775	11,210
			4	9,435	9,390
			5	7,300	18,010
			6	15,235	15,340
			7	15,570	16,760
			8	16,310	16,925
			9	15,500	17,100
			10	8,820	
			11	6,980	
			12	5,425	
			1908・1	2,030	800
			2	6,970	6,595
			3	13,487	14,100
			4	16,414	18,215
			5	18,400	18,210
			6	18,690	20,360
			7	19,750	20,975
			8	21,020	21,870
			9	17,780	18,180
			10	10,100	10,205
			11	2,300	2,440
			12	100	100

(出所) 山川勇木『清国出張復命書』横浜正金銀行, 1898年, pp.55-57

'Memo of Stock of Sycee, Dollars and Loans to Natives' in Shanghai Branch Manager's Letter to J. R. M. Smith at the Head Office, dated 24 December 1908, Group Archives of the HSBC (Bank History, London Record I I, Item 670).

『通商彙纂』の数字は、本文の表10の数字である。

る、と言えよう。

- (11) 絹業における蚕繭の内陸での集荷のメカニズムは、リリアン・M・リーによると次のようである。「錢莊は、製糸業では中枢的な役割を果たした。錢莊は、繭の買入の金融をつけただけではなく、絹業の大部分は、現金ベースで行なわれていたので、彼らの資金供給は、全システムのオペレーションにとって絶対的に重要なものであった」(Lillian M. Li, *China's Silk Trade: Traditional Industry in the Modern World 1842-*

1937, Cambridge, Mass., 1981, p.172

更に次のように説明されている。「契約が繭行との間に結ばれた後に錢莊は、その地区に人を派遣して、代金を支払い、上海への繭の輸送を監督させる。上海では繭は錢莊の所有物になり、錢莊の指定する倉庫に収められていた。…〔倉荷〕証券はその銀行〔錢莊〕に預けられ、〔繭の〕買手が倉庫内の繭の一部を使いたいと望んだ時には、彼はまず銀行に対する支払をしなくてはならなかった。」Lillian M. Li, op. cit., p.181

- (12) 根岸佶編、『清国商業綜覧』第四卷，丸善，1907，pp.140-143
- (13) 根岸佶，同上書，pp.142-3
- (14) 中国人民銀行上海市分行編『上海錢莊史料』，上海，1960，p.775，p.811，p.833
- (15) 注14に同じ。
- (16) Letter of the Shanghai Manager (Oram) to J. R. M. Smith of the Head Office, dated 7 August 1908, pp. 1 - 2 (Bank History, London Record II, Item 670 in the Group Archives of the HSBC, Mariner House, Pepys Street, London EC 3 N 4 DA)
- (17) C. F. Remer, *Foreign Investments in China*, Londn, 1933, reprinted in New York, 1968, p.69, p.83. 原数子は米ドル表示なので， $\text{£}1 = \$4.866$ の率で英ポンドに換算した。
- (18) Chi-ming Hou, *Foreign Investment and Economic Development in China*, Cambridge, Mass., 1965 p.99 (Table 4)
- (19) C. F. Remer, op. cit., p.123
- (20) Thomas G. Rawski, op. cit., p.144
- (21) Albert Feuerwerker, *The Chinese Economy, ca. 1870-1911*, Ann Arbor, Michigan, 1969, pp.43-4
- (22) Albert Feuerwerker, 'Presidential Address : Questions about China's Modern History that I wish I could Answer' , *The Journal of Asian Studies*, Vol, 51, No. 4 (November, 1992)
- Eng, Robert Y., *Economic Imperialism in China-Silk Production and Exports, 1861-1932*, Berkeley, Calif., 1986
- Faure, David, *The Rural Economy of Pre-liberation China*, Hong Kong, 1989
- Ferguson, John C., 'Notes on Chinese Banking System in Shanghai', *Journal of the North-China Branch of the Royal Asiatic Society*, 1906 (Vol XXX VII)
- Feuerwerker, Albert, *China's Early Industrialization*, Cambridge, Mass., 1958
- Do., *The Chinese Economy, ca. 1870-1911*, Ann Arbor, Michigan, 1969
- Do., 'Presidential Address: Questions about China's Modern History...' *Journal of the Asian Studies*, Vol51, No. 4 (Nov. 1992)
- Hou, Chi-ming, *Foreign Investment and Economic Development in China.*, Cambridge, Mass., 1965
- Hsiao, Liang-lin, *China's Foreign Trade Statistics*, Cambridge, Mass., 1974
- Huang, Philip C. C., *The Peasant Economy and Social Change in North China*, Stanford, Calif., 1985
- Do., *The Peasant Family and Rural Development in the Yangtsi Delta, 1300-1988*, Stanford, Calif., 1990
- Do., 'A Reply to Ramon Myers' , *Journal of the Asian Studies*, 30 : 3 (Aug. 1991)
- Jones, Geoffrey, *British Multinational Banking 1830-1990*, Oxford, 1993
- Li, Lillian M., *China's Silk Trade; Traditional Industry in the Modern World, 1842-1937*, Cambridge, Mass., 1981
- Lieu, O. K., *The Growth and Industrialization of Shanghai*, Shanghai, 1936
- Morse, H. B., *The Trade and Administration of the Chinese Empire*, Shanghai, 1908
- Muirhead, Edward, *Crisis Banking in the East-The History of the Chartered Mercantile Bank of India, London and China, 1853-93*, Aldershot, Hants, 1996
- Myers, Ramon H., *The Chinese Peasant Eco-*

参考文献

- Brandt, Loren, *Commercialization and Agricultural Development in Central and Eastern China, 1870-1937*, Cambridge, 1989
- Chao, Kang, *The Development of Cotton Textile Production in China*, Cambridge, Mass., 1977
- Do., *Man and Land in Chinese History*, Stanford, Calif., 1986
- Cheng, Yu-kwei, *Foreign Trade and Industrial Development of China*, Washington D. C., 1956

- nomy*, Cambridge, Mass., 1970
- Do., 'How Did the Modern Chinese Economic History Develop? -A Review Article', *Journal of the Asian Studies*, 80 : 3 (August 1991)
- Nishimura, Shizuya, *British Banks in Shanghai, 1890-1913*, Discussion Paper, No. IS/97 /330, The Suntory Centre, STICERD, London School of Economics, 1997
- Nolan, Peter, *State and Market in the Chinese Economy*, London, 1993
- Perkins, Dwight H., *Agricultural Development in China, 1368-1968*, Edinburgh, 1969
- Rawski, Thomas G., *Economic Development in Prewar China*, Berkeley, Calif., 1989
- Remer, C. F., *Foreign Investments in China*, London, 1933, reprinted, NY, 1968
- Ven, Hans Van de, 'Recent Studies of Modern Chinese History', *Modern Asian Studies*, May 1996
- Wong, R Bin, 'Chinese Economic History and Development : A Note on the Myers-Huang Exchange', *Journal of the Asian Studies*, 51 : 3 (Aug. 1992)
- 香川峻一郎,『錢莊資本論』東京, 實業之日本社, 1948
- 根岸佶編『清国商業綜覽』第四卷, 東京, 丸善, 1907
- 山沢逸平・山本有造『長期經濟統計, 14 —— 貿易と國際収支』東京, 東洋經濟新報, 1979
- 中村哲夫「近代中国の通貨体制の改革 —— 中国通商銀行の創業 —— 」(『社会經濟史学』62卷3号, 1996年8・9月)
- 張国輝『晚清錢莊和票号研究』北京, 1989
- 張郁蘭『中国銀行業發展史』上海, 1957
- 除寄廩編『最近上海金融史』台北, 1970
- 中国人民銀行上海市分行『上海錢莊史料』, 上海, 1960
- 潘君豪『中国錢莊概要』, 上海, 1929 (復刻版, 台北, 1970)
- 黃鑑暉『山西票号史』, 太原, 1987
- 李權時・趙渭人『上海之錢莊』, 上海, 1929 (復刻版, 台北, 1970)
- 楊蔭溥『上海金融組織概要』, 上海, 1929 (復刻版, 台北, 1972)
- Archival Materials of the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, at the Group Archives of the HSBC, Mariner House, Pepys Street, London, EC 3 N 4 DA
- Archival Materials of the Chartered Bank of India, Australia and China, kept at the Guildhall Library, London
- Bankers' Magazine
『通商彙纂』(外務省通商局發行, 週刊)